

〔A類社会選修, B類社会専攻 対象〕

小論文 解答例

令和4年度

一般選抜前期

<解答のポイント・解答例> 記述式なので唯一の正解はない。

「天災は忘れたころにやってくる」という言葉がある。人間の寿命は限られており、次々に新しいことが起こって過去の出来事は忘れられていく。終戦からすでに7.5年以上過ぎ、大戦を生で記憶している人は若くても80歳を超えている。経験者の証言に頼るのは限界がある。文字や写真の記録だけでは自分たちとの関係を実感するのが難しいかもしれない。これに対処するには、(1)できるうちに経験者の話を聞き取り、肉声やその人の姿とともに記録して活用する、(2)重要な事件が起きた場所にそれを記録し後世に伝える掲示やモニュメントを設置する、(3)それらを実際の経験の代わりに想像する手がかりとして利用する、(4)似たような事態を経験した国内や外国の人たちと交流し、お互いの記録と経験を共有してその意味を考える、などが挙げられるだろう。過去の記録から受け身で知識を得るだけでなく、自らの身体を動かし、他者とコミュニケーションするなかで能動的に学ぶようにすることが大切である。